

2024年 おやじの山旅 四国の山
(2024年4月21日~4月26日)



石鎚山登頂 1982m (4月22日9時00分)



天狗岳 9時20分

1.趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達が定年を迎えた。
その仲間達で2016年におやじの山旅を立ち上げた。
かけがえのない仲間達でこれからも山を楽しみたい。(その9年目)

2.コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

3.計画

山域・山名 四国の山 4座

石鎚山、三嶺、飯野山(讃岐富士)、星ヶ城山(小豆島最高峰)

*竜王山は参加メンバーの協議にて中止

期間 2024年4月21日(日)~4月26日(金) 6日間

参加者と役割分担

No.	氏名	役割	登山担当リーダー	保険	生年月日	年齢	血液
1	金子 清	CL・渉外	飯野山 (讃岐富士)	登山S	1955/5/10	68	A
2	町田 修	SL・地形・記録	三嶺	登山S	1955/9/5	68	B
3	津田 廣一	記録(正)	星ヶ城山	登山S	1953/6/20	70	O
4	天野 広	会計・写真	石鎚山	登山S	1955/4/25	68	AB
5	上田 正博	記録(副)		ハイ1	1950/5/23	73	A
6	津田 利栄子	(ゲスト)		ハイ1			

スケジュール(概要)

No.	2024年 月/日	山名	標高 (m)	登山コース	登山行動 時間(h)	担当	宿泊先
1	4/21(日)	(移動)		刈谷～伊勢湾岸道～新名神～山陽道～高松道～宿			国民宿舎 石鎚
2	4/22(月)	石鎚山	1982	土小屋登山口～鶴ノ子ノ頭～弥山～天狗岳(往復)	6:00	天野	大歩危狭 まんなか
3	4/23(火)	三嶺	1893	名頃新登山口～ダケモミの丘～三嶺小屋～三嶺(往復)	7:00	町田	ふいご温泉
4	4/24(水)	飯野山 (讃岐富士)	422	飯野町登山口～飯野山(往復)+(観光)	2:00	金子	休暇村 讃岐五色台
5	4/25(木)	星ヶ城山 (小豆島)	816	ロープウェイ山頂駅駐車場～星ヶ城山(往復)+(島内観光)	2:00	津田	国民宿舎 小豆島
6	4/26(金)	(移動・ 観光)		小豆島～(フェリー)～姫路港～(姫路城)～山陽道～新名神～伊勢湾岸道～刈谷			

行き (4/21) ; 町田・金子号の2台 ; 刈谷 PA に 6:50 頃合流～伊勢湾岸道～新名神～山陽道～高松道～宿
 (4/25) ; 四国フェリー・グループ小豆島フェリー 高松港 9:00 発～小豆島土庄港 10:00 着
 帰り (4/26) ; 四国フェリー・グループ小豆島フェリー 小豆島福田港 9:20 発～姫路港 11:00 着
 姫路城～山陽道～新名神～伊勢湾岸道～豊田南 I C～刈谷

四国の山 登る山(4座)



4.思い出の1コマ、1コマ

4月21日 移動日 (刈谷→宿へ)



金子号と合流待合せ・・・ちょっと中に入ってみると風情あるね～

4月22日 いざ石鎚山へ 鎖場もなんのその！天狗まで行きました



さあ～、出発！



2の鎖手前 トイレ休憩所 (2人で巻道へ)



一足早く山頂到着



3の鎖を登る金子、町田



上田さんも負けじと登る

☞天野さん
2の鎖を登る



石鎚山頂から天狗への道



4 天狗山頂 (いい顔してるね～)

4月23日 雨にも負けず、風にも負けずに三嶺へ



駐車場で準備中 (1人空元気)



カッパを着こみました



休憩の1コマ



三嶺山頂 (何も見えねど・・・登ったぜ～！)



非難小屋手前の見残池



非難小屋で寛ぐ面々 (風強く寒かった)

4月24日 2日続けて雨にも負けず飯野山 (讃岐富士) へ



正面に見えるは讃岐富士？



左手に野外活動センター



頂上だぜ



おじよも伝説 (巨石群)



午後は金比羅山参り



参道を抜けて



長い階段を登り (しんど～い)



やっと本殿へ



参拝の証拠です

4月25日 小豆島 星ヶ城山 (やっと晴れました・・・)



四国から小豆島へ



寒霞溪ロープウェイを降りて出発



三笠山にて



西峰からの景色



星ヶ城山山頂 (烽火台)



下山後に全員でパチリ



この日も午後は観光です



懐かしい (タイムスリップしてる)



青空に泳ぐ鯉のぼり



何人いるのかな?



宿の夜の風景

4月26日 移動と観光 (姫路城)



国民宿舎 小豆島 願いの翼



姫路城の堀



姫路城遠望



みんないい顔してます



庭園散策



茶席を望む

5.行動記録

04/22 (月) 石鎚山 1,982m 曇り

■ルート 国民宿舎石鎚→分岐→石鎚神社→天狗岳→石鎚神社→分岐→国民宿舎石鎚



■行動 (行動時間 5時間 33分)

4:45 起床 → 6:16 国民宿舎石鎚発 → 7:10 第2ベンチ → 8:10 二ノ鎖元小屋 → 9:00 石鎚神社
→ 9:20 天狗岳 1,982m → 9:38 石鎚神社 → 10:11 二ノ鎖元小屋 → 11:25 第3ベンチ
→ 11:49 国民宿舎石鎚着

起床し、国民宿舎が用意してくれたおにぎり弁当を食べる。インスタントではあるが、味噌汁もあり体があつたまる。天気は思っていたよりも良く、雨は降っていない。いつもの通りラジオ体操をした後、宿舎横の登山口から登り始める。登山口付近ではショウジョウバカマがきれいに咲いている。今回の目的の一つに「アケボノツツジを愛でる」があったが、宿での情報ではまだ咲いていないとの事で残念だ。みんな元気で予定の第1ベンチはパスし、第2ベンチで休憩する。分岐を左折し、少力で二ノ鎖元小屋に着きトイレ休憩をする。ここから鎖場になるとの事で、鎖場を登る人はストックを小屋の中にデポした。津田夫妻は巻道を、他の4人は鎖場を選択した。2の鎖を登り始めたが、私は最初の足掛かりが滑り「登れない」と諦めかけた。しかし左側の鎖に再チャレンジし、なんとか登れた。しかし心拍数が上がりまた疲れていたため、私は3の鎖をパスし巻道に変更した。石鎚神社に着き津田夫妻と合流し、あとの3人を鎖場で待ちました。3人とも息を切らして登ってきました。石鎚神社の広場で休憩をした後、ガスの中を天狗岳へ向かいました。両側が切れ落ちた狭い岩場を、滑落しない様慎重に歩き、やっとのことで頂上に到着しました。記念写真を撮り神社へ戻りました。途中の岩場で下を見下ろすと、余りの急角度で切り立っていて、何かチジミ上がる程の思いでした。めっちゃ怖かったけど登れて良かったです。二ノ鎖元小屋でストックを回収し下山。宿に預けていた荷物を回収した後、UFOライン・吉野川・早明浦ダムを經由し、次の宿「大歩危峡まんなか」へ向かいました。

(記：天野)



雲海の瓶ヶ森



第2ベンチで休憩



気持ちの良い笹原



2の鎖を登る



ガスのなか天狗岳へ



天狗岳の頂上で



石鎚山 山頂



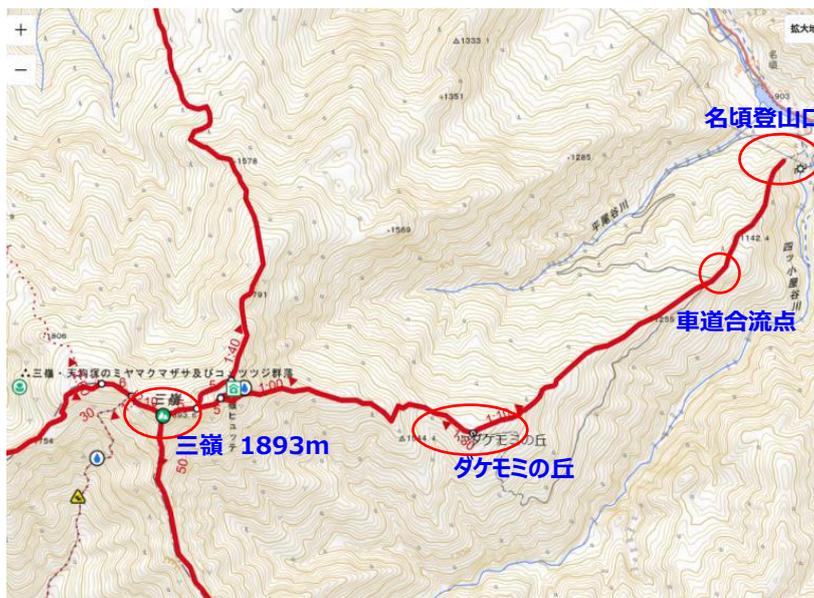
下山中



ショウジョウバカマ

4/23(火)三嶺 曇り、時々雨

■ルート：名頃登山口～ダケモミの丘～三嶺 1893m（登山口からのピストン登山）



CL: 町田 修
SL: 金子 清
天野 広
津田 廣一
津田 利栄子
上田 正博

■コースタイム

名頃登山口 7:30 発→車道合流 8:00
→8:30:1 本→9:10:カッパ着用
→9:30:1 本→10:10 上部笹原に出る
→10:20-40 三嶺山頂→10:50-11:00 避難小屋
→12:00:1 本→13:00:名頃登山口着

大歩危の宿から祖谷川沿いの R439 をくねくねとさかのぼること 1 時間。途中「祖谷のかずら橋」「奥祖谷のかずら橋」を経て、名頃の登山口に着いた。三嶺は高知県側では「さんれい」徳島県側では「みうね」と呼ばれているらしい。我々は徳島県側からなので「みうね」と呼ぶ。登山口からしばらくはブナとヒメシャラの混在する林を登る。車道合流点を過ぎ、しばらく行くとダケモミ（本名：ウラジロモミ／葉の裏が白い）の丘に出る。尾根の一角がダケモミで鬱蒼としている。林の中で直ぐには気付かなかったが雨が落ちてきたらしい。カッパを着て上部を目指す。樹林が切れると南からの風と雨粒が吹き付けてくる。「見残池」が姿を現し、辺りはミヤマクマザサに変わる。

山頂は晴れていると、さぞ見晴らしがいいのだろうが 360 度一面ガスの中、記念撮影して池の東側のヒュッテに移動する。綺麗な小屋でしばらく休憩後下山する。山腹の樹林帯には殆ど下草が生えていない。これは鹿の害で、ダケモミや一帯をネットで保護したり、ネットゾーンで草花の再生に取り組んでいた。我々にとっては、見通しの良い樹林の落ち葉の路を気持ちよく歩いて、ある一面で鹿に感謝！四国で一番美しい山、天空の稜線とやらは雨天で実感できなかったが、登り 3 時間、降り 2 時間、四国の二百名山をすんなり登ってしまった。

名頃登山口から 2 時間 30 分かけ、本日の宿「ふいご温泉」に向かう。



楽しい山行でした！

(記) 町田



4/24 (水) 飯野山(讃岐富士) 小雨のち曇り

■ルート 飯野町登山口～飯野山～飯野町登山口

(全行程 4.0km 行動予定 2.0時間)

参加メンバー

CL : 金子清

SL : 町田修、天野広、上田正博

津田廣一、津田利栄子



飯野山(讃岐富士)山頂

行動 (行動時間 2時間20分 休憩含む)

飯野町登山口 10:25～飯野山(讃岐富士) 11:25～11:55
～飯野町登山口 12:45

飯野町登山口駐車場に10:00到着、身支度を済ませ10:25出発する。野外活動センターに立寄り情報収集。三合目に向う途中で小雨が降り出す。雨具を着ける。三合目からは直登ルートを行く。雨で濡れた登山道を1時間ほど歩くと飯野山山頂に着く。山頂には薬師堂や昭和天皇歌碑、展望台には讃岐富士を造った大男「おじよも」の足跡や大天狗、石鎚と呼ばれる巨石や巨岩が点在する。集合写真を撮り、休憩後下山する。下山ルートは時計回りで三合目まで向かい、野外活動センターで登頂記念カードをいただき駐車場に戻る。



3合目に向う

途中、九合目、六合目、五合目の展望が良く、瀬戸大橋、讃岐山脈、丸亀平野の景色を楽しめた。

下山後、昼食は名物「讃岐うどん」を食した。皆さん満足そうだった。

(記: 金子)



讃岐富士登山口



飯野山(讃岐富士)山頂



登頂記念カード

4/25 (木) 星ヶ城山報告書 晴れ

■ルート (寒霞溪ロープウェイ山頂駅⇒三笠山⇒星ヶ城山〔ピストン〕)

参加メンバー

CL;津田 廣一 SL;上田 正博

町田 修、金子 清、天野 広、津田 利栄子



星ヶ城山山頂の烽火台をバックに

■行動記録 (行動時間 2 時間〔山頂での休憩 30 分を含む〕)

7 : 40 宿発⇒(フェリー) ⇒寒霞溪ロープウェイ P⇒11 : 15 山頂駅発⇒11 : 30 三笠山⇒12 : 15 星ヶ城山山頂 (山頂発 12 : 45) ⇒13 : 15 山頂駅 (下山)

4 日目にして、やっと晴れとなった。9 時発のフェリーに乗船の為、宿 (休暇村) の朝食を一番の 7 時に食べ、宿を出る。出航 30 分前よりかなり余裕で港へ到着、ヤレヤレ。フェリーに乗船し、1 h 程のんびりとまったりした時間を過ごす。予定通り 10 時に小豆島土庄港へ到着、寒霞溪ロープウェイへ車を走らせる。ロープウェイの中から、寒霞溪の絶景を楽しみながら、山頂駅到着を待つ。山頂駅を出発し、15 分ほど歩くと三笠山の広場へ。気持ちのいい広場



三笠山の広場 (休憩したくなるよね~)

で休憩したくもなるが、“いかん！いかん！” 『まだ休憩は早すぎる 行くよ！』 撮影タイムだけを取って進む。木陰の気持ちのいい道を進んで行く和西峰への標識が・・・見つけれ



寒霞溪ロープウェイからの眺め



星ヶ城山シボルの烽火台

れないまま、展望のいい岩の所へ到着 (後に西峰と分かる)。そこから 10 分程、更に進むと小豆島最高点 (816m) の頂上 (東峰) へ着いた。烽火台とあるので、目印で煙でも出したのだろうか？ 30 分の大休止と見晴らしを堪能して山頂を後にする。途中、部分周回して史跡巡りをしようとしたが、見つからないままの下山となった。全員、余裕しゃくしゃくの登山だった。(記 ; 津田)



岩の上の 5 人 (実はここが西峰だった)

【補足】 下山後の観光で、『二十四の瞳 映画村』を見学し、道の駅で土産物を物色後、宿へ入る。ゆったりと温泉に浸り、夕陽を眺めながらの夕食に幸せを実感しての 1 日を終えた。おやすみなさい~



観光 『二十四の瞳 映画村』の看板前にて



11 岬の分教場



ナイスな夕景

4/26 (金) 姫路城観光&移動(帰宅) 晴れ

参加メンバー

金子 清、町田 修、天野 広、上田 正博、津田 廣一、津田 利栄子

行動

8:00 宿発⇒(フェリー)⇒11:00 姫路港⇒(昼食)⇒12:30~15:00 姫路城&庭園散策⇒18:00 帰宅

最終日、宿でゆっくりしたい気持ちもあったが、小豆島 福田港 9:20 発のフェリーに遅れない様に8時に出発。朝の通勤渋滞もなく、思いの外早く港に着いた。時間もたっぷりあるので、30分程、港の付近を散歩する。フェリーに乗船すると、1時間半の休息タイムだ。11時に姫路港へ到着。まずは昼食の為にレストランを探す。昔ながらの洋食屋さんで、美味しく頂く。



小豆島 福田港の風景



いよいよ姫路城へ入ります

念。庭園を見ていくことにした。庭園も広くて、結構時間がかかってしまった。見応え十分な観光となった。姫路城の観光後は、休憩することなく、一気に帰宅の途についた。(記:津田)

事な城である。観光客(特に外国人)も多かった。堀と石垣、天守閣をいろいろな所からカメラに収めた。天守閣の中に入って、説明分も読んでいくと意外と時間もかかる。天守閣を見終わって、船で堀巡りをする予定が、出発時刻に遅れて断



壮観な姫路城(白鷲城)

【補足】妻に聞いた話。姫路城の女子トイレが汚すぎる。トイレットペーパーの先が下に着いていたり、汚物入れの中に空のペットボトルが詰め込んであったり・・・外国人に偏見を持つ訳ではないが、入場料に差をつけるのは妥当かもしれない。



姫路城をバックに



庭園も見学

6. 参加者の所見と感想

<金子 CL>

おやじの山旅 9 年目を迎えた。

今回は四国の山、石鎚山、三嶺(みうね)、竜王山、飯野山(讃岐富士)、星ヶ城山の 5 座を計画した。

5 座のうち竜王山が諸事情によりキャンセルとなった。(次回の楽しみにとっておくことにした)

あまり天候に恵まれなかったが 4 座は計画通り登ることができた。

山旅前半の 3 日間は車の移動時間も含め、我々にとっては少しハードな山行となった。後半の 3 日間は行程に余裕が有り、登山と観光を楽しむことができた。4 日目は飯野山(讃岐富士)登山、名物の讃岐うどん(ランチ)、金刀比羅宮参拝。5 日目はフェリーで小豆島に渡り、寒霞溪(かんかけい)、星ヶ城山登山、二十四の瞳映画村。6 日目(最終日)はフェリーで姫路に渡り、姫路城近くのお店で美味しいランチ、姫路城、好古園(こうこえん)を満喫できた。

今回はマイカーを利用した長距離運転となったが運転手を交代しながら安全運転に努めた。

次回(2024 年 6 月)も今回同様にしっかりした計画・準備で楽しい山旅を続けていきたい。

【金子記】

おやじの山旅 履歴

No.	年	期間	山城	主な山(標高)	参加人数
1	2016	6/25~7/3	北海道の山(道央・道南)	羊蹄山(1898m)	13
2	2017	6/24~7/2	北海道の山(道東)	羅臼岳(1660m)	12
3	2018	6/30~7/8	北海道の山(大雪)	トムラウシ山(2141m)	13
4	2019	6/22~6/30	北海道の山(道北)	利尻山(1719m)	13
5	2020	8/22~8/30	東北の山(南部)	磐梯山(1819m)	11
6	2020	10/16~10/25	東北の山(北部)	岩手山(2038m)	10
7	2021	10/6~10/14	関東の山(北部)	谷川岳(1977m)	8
8	2022	5/25~6/2	九州の山(北部)	阿蘇山(1592m)	9
9	2022	10/12~10/20	関東の山(南部)	浅間山(2568m)	9
10	2023	5/24~6/1	九州の山(南部)	宮之浦岳(1936m)	8
11	2023	10/8~10/13	中国の山	大山(1709m)	11
12	2024	4/21~4/26	四国の山	石鎚山(1982m)	6

<天野 会計担当>

会計：今回途中で人の出入りがなく、また交通費も全員同じで計算は楽でした。

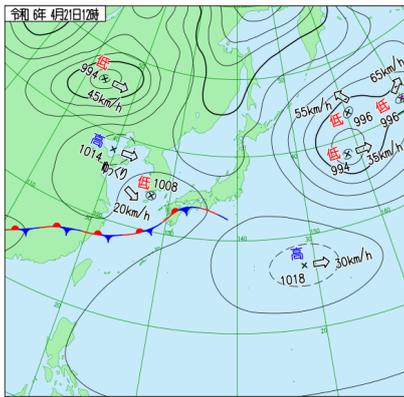
感想：

- ・石鎚山 ; 何とか雨に降られず良かったです。2 の鎖は何とか登りましたが、3 の鎖を登れなく残念です。天狗岳にも登れて満足しています。眺望はありませんが、充実した山行となりました。
- ・三嶺 ; 小雨の山行となりました。頂上付近では風雨が強く吹き飛ばされそうでしたが、前回登ったより余裕があり楽しめました。しかし笹原の眺望を期待していましたが残念です。
- ・讃岐富士; 雨が降ったりやんだりとても暑かったです。地元の人とのふれあいが出来、良かったです。花も綺麗でした。
- ・星ヶ城山 ; 4 座目にしてやっと好天に恵まれました。寒霞溪・瀬戸内海の景色も素晴らしかった。路も優しく楽しく登れました。最高のバースデイ登山となりました。

<町田 SL 気象担当代理と感想>

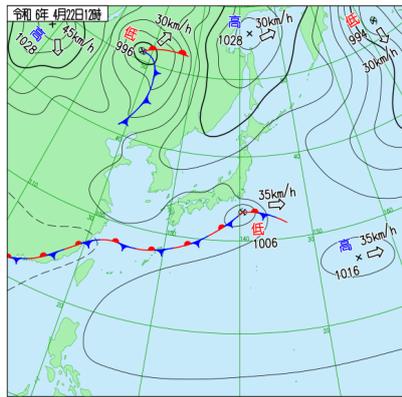
四国の山旅-天気状況

4/21-四国に向かって移動



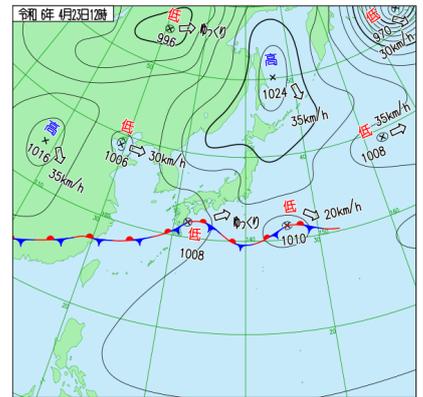
前線に向かって移動。標高≒1500mの UFO ラインはガスの中。

4/22-石鎚山 登山



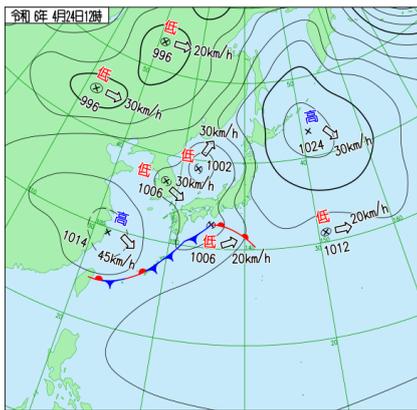
山頂はガスの中！天狗岳南面の崖が少し霞んでいた。

4/23-三嶺 登山



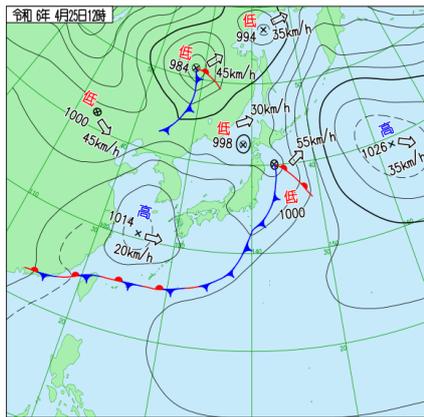
四国沖を低気圧が東進。レインウェアの一日。

4/24-讃岐富士（飯野山）登山



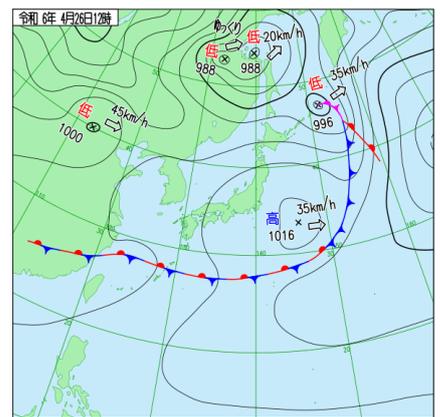
四国沖を低気圧が東進！休暇村雨傘さして山歩き。五色台から瀬戸大橋を望む。

4/25-小豆島 星ヶ城山 登山



やっと高気圧が張り出してきた！ベタ凧の瀬戸内をフェリー航行 晴天の星ヶ城山登山。

4/26-愛知県へ移動



快晴の一日。ベタ凧の瀬戸内を姫路港へ向かう。迫力満点の姫路城を堪能する。

感想

六日間の日替わり宿での山旅と移動。忙しく動いた感じがする。前半は天気恵まれず、展望のない山頂が多かった。あけぼのツツジを愛でながらの石鎚山を想定していたが、時期的に早すぎたようだ。また春のあけぼのツツジの頃、瓶ヶ森辺りや笹ヶ峰をゆっくり訪ねたい。

後半、登山の合間にショート観光を織り込んだのは良かった。小豆島の「二十四の瞳」の舞台で（垂井栄の小説、木下恵介監督で高峰秀子がおなご先生役）映画化された、みさきの分教場は私たちが小学生だった頃の教室を彷彿とさせた。さらに当時の銀幕スターたちのポスターやプロマイド写真が展示され、レトロ美術館の様だった。この当時を知る世代が去ったら、ここには誰が訪ねてくるだろう？・・・余計な心配か。さて今回の山行、誰一人弱音を吐かず四つの山をさらに登り切った。このメンバーまだまだいけますね！



<津田 記録担当>

今回の山旅は天気女神にそっぽを向けられ、展望の望めない登山が多かった。特に、三嶺は山頂の展望が素晴らしい山との情報もあり、私にとって初めての山であったので楽しみにしていたが残念であった。又の機会があれば、ぜひ天気のいい日に登りたい。香川県最高峰の竜王山も計画していたのだが、言い出しっぺの藤田さんが諸事情で抜けた事と雨予報が重なってメンバー全員で飯野山へ変更した。当日の天候からも正解だと思いました。今回も、いろいろあったが、結果的には計画通りに4座の頂を踏むことができたし、「金比羅山」、小豆島の「二十四の瞳」や姫路城観光も楽しめたし、満足の山旅であったと思います。

石鎚山・・・2回目ではあるが、前回とはコースが違って土小屋から登る。雨を覚悟していたが、曇天ではあるが、何とか天気も持ちこたえてくれた。妻と一緒に鎖場回避の巻道で登る。皆より、早く山頂に到着、皆が鎖場を登ってくるのを待つ。合流して天狗まで行く事になった。鎖場回避の私達にとっては、唯一の難所だが、妻も怖がる事なく、ヒョイヒョイと岩の上を渡っていく。杞憂に終わった様だ。眺望はなかったが、楽しめた。

三嶺・・・初登の山だが、歩き出してすぐにカップを着る。樹林を過ぎると、雨と強風で寒く感じる。悪天の中、頂上に着くも何も見えず。写真だけを撮って、非難小屋へ。非難小屋の中で、ゆっくり寛いで、下山した。登頂できた事は良かったが、眺望が楽しめず、残念！（又、登りに来るぞ！）。

飯野山・・・讃岐富士とも言われるだけあって、車窓の前方にきれいな姿が見えてくる。飯野山も初登だ。10時に駐車場に着くも、2時間程度で登れる山だ。時間的にも余裕だ。予定通り1hで登り、降りてきた。下山後の讃岐うどんを楽しみ、金毘羅さんを参拝して宿へ向かった。山も観光も楽しめた。

星ヶ城山・・・ずいぶんと前に登ったが、記憶が曖昧だ。今回で唯一、晴れてくれた山だ。寒霞溪ロープウェイを使うので、先ず景色を楽しみながら、登山口へ。天気も気にせず、楽しくゆっくり歩くことができた。下山後は、「二十四の瞳」映画村を観光し、昭和へタイムスリップ。この日も、登山と観光の両方を楽しめた。

<上田 記録副担当>

今年で9年目を迎えた。親父の山旅も一人の脱落者も出なくて、続けてこれたのも、後輩の皆さんの山の知識の高さと献身的な努力によるものと深く感謝してます。今回は2000m級の2山と1000m未満の3山で苦なく登れると思っていたが、石鎚山の鎖場の急登や天狗岳までの岩場の尾根の狭さをなんとか登りましたが、自分の体力とバランス感覚の悪さを感じながら必死の思いで登ったが、今考えると少し恐怖感を覚えるほどであった。三嶺山も最後の急登は体力のなさを実感するほどで、気持ちとは裏腹な体力の衰えを実感した次第であった。来年の10年目までを目標に、メンバーに迷惑をかけずに山を楽しむための体力作りを計画的に実施せねばと痛感した。これほど長きにわたって同じ仲間と山を楽しんで来れたことを皆さんに感謝するとともに自分でも頑張ったと思います。今回も温泉や観光を織り交ぜた楽しい山旅でした。

<津田 利栄子さん>

今回の四国の山旅も楽しく参加することができました。いつものことですが、一緒に行って下さる皆さんのおかげです。残念ながら、天候には恵まれませんでした。雨のおかげで新緑の葉・苔等がとてもきれいで、楽しく歩くことができました。次回もお邪魔にならない様に参加できます事を願っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

参考；会計報告

項目	金額(円)	備考
宿泊費	371,400	全日程 6 日間参加(5 泊) ; 61,900 円/1 人
ドリンク代等	16,430	
交通費	136,948	全日程参加者 22,825 円/1 人
(車維持費)	(12,635)	交通費に含む
(ガソリン)	(33,533)	交通費に含む
(高速代 +フェリー代 +駐車場料+ 他)	(90,780)	交通費に含む(高速代;31, 660 円 フェリー代;38,800 円 駐車場代;2,800 円 ロープウェイ代;12,660 円 映画村代;4,860 円)
合計	524,778	

【編集後記】

9年目の春の山旅が終わった。今年は春(5月)、夏(6月)、秋(10月)と3回も計画されている。

第一弾の春の山旅の編集が、思う様に進まず、2か月以上かかってしまった。申し訳ない。

理由はいろいろ考えられるが、根気が続かなくなってきた?否、適切なことばがすぐに思いつかない?

その内、いやになって“今日はダメだ! 明日にするか?”と、投げ出しちゃう。

後ろ向きの事を書いているけど仕方ないので、来年の10年目に向かって、この「おやじの山旅」を、どの様にまとめようか?私にとって大問題である。ずっと考えているのだが、思いつかない。いいアイデアがあれば、教えて欲しい。「おやじの山旅」10年の節目、いい形でしめたいものです。